

評価対象	今年度の方策	今年度の具体的数値目標	成果と課題（第1回比）	3学期の主な改善策
Ⅰ 保護者等との連携	○学校、学年、学級通信の発行や、ホームページの更新及びスクールメールアシストの活用等を通して、タイムリーな情報を提供する。	○学校や生徒の様子が分かると感じている保護者が80％以上。	○学校や生徒の様子がよく分かったと答えた保護者は83％（＋3pt）	○学年通信やHome＆Schoolでの情報提供の他、行事や部活動の大会結果などホームページにアップしていきます。また、学校からのたよりは、必ず保護者に見せるように伝えます。
	○保護者会・懇談会・電話連絡や家庭訪問を通して、保護者の気持ちや意向をくみ取り、誠実に対応する。	○学校は連絡や相談がしやすいと感じている保護者が80％以上。	●学校は連絡や相談がしやすいと感じている保護者は81％（＋4pt）	○電話や保護者会などで積極的に話しかけたり、事務連絡だけでなく日常の様子を定期的に情報交換をしたりすることを通して、保護者との信頼関係を深めます。
Ⅱ 確かな学力	○伸ばしたい資質・能力を明確にし、主体的で対話的で深い学びを実践する。	○授業が分かると感じている生徒が80％以上。 ○授業が楽しいと感じている生徒が80％以上。	○授業が分かると感じている生徒は92％（±0pt） ●授業が楽しいと感じている生徒は82％（＋4pt）	○教師一人一人が自分の授業を改めて見直します。学びがいのある学習課題やめあての設定、振り返りの実施をするなど、生徒が達成感や満足感を感じることができ、対話的・主体的な授業づくりをさらに推進していきます。
	○自主学習ノートの継続的な確認と支援や、「学力向上通信」の定期的な発行を通し、家庭学習の量的質的充実を図る。	○1日あたりの家庭学習（塾等を含める）の時間が、1時間以上である生徒が80％以上。	●1日あたりの家庭学習（塾等を含める）の時間が、1時間以上である生徒は84％（＋8pt） 保護者は77％（－2pt）	○中学校の特性を活かし、自主学習ノートを教科担当が個に応じたアドバイスをするなど、より有効性のある取り組みをしていきます。
Ⅲ 豊かな心	○学活や道徳等において、あいさつの意義や大切さを考える機会を与え、さわやかなあいさつを生徒自身からできるよう働きかける。校内でのあいさつ運動、小中連携の合同あいさつ運動を行い、あいさつの推進をしていく。	○自分から進んでしかっかりとしたあいさつができる生徒が80％以上。	○自分から進んでしかっかりとしたあいさつができる生徒は91％（＋2pt）	○道徳や学活、総合的な学習の時間、学校行事等を通して、あいさつの意義を生徒に考えさせる場面を設定し、あいさつの大切さを引き続き伝えていきます。部活動においても、活動を通して、あいさつの意義や大切さを考える場を設定します。
	○日頃から生徒一人一人と向き合い、長所を褒めて伸ばしていく。学校行事では、生徒全員で1つのことをやり遂げる楽しさを実感できるような企画・運営を行う。	○学校生活が楽しいと感じている生徒が80％以上。	○学校生活が楽しいと感じている生徒は81％（－3pt）	○2学期は学級単位によるいじめ防止活動（ピアサポート）を実施し、笑顔が多く見られました。3学期もいじめ防止活動を行い、笑顔あふれる活動を計画していきます。
	○生活アンケートや細かな生徒の観察を通して、いじめ防止に努め、いじめ問題が起きたときにはいじめ防止対策委員会を中心に迅速な対応をする	○学校のいじめへの対応や対策について、十分親身になって取り組んでいると思う生徒・保護者が80％以上	●学校のいじめへの対応や対策が十分であると思う生徒は78％（＋1pt） 保護者は68％（＋2pt）	○アンテナを高くし、いじめを認知したら、迅速に事情を確認し、適切に複数の教員での指導を行います。保護者や関係機関との連携も行い、いじめ撲滅に努めます。
	○教師による継続的な呼びかけ、校内におけるポスターの掲示、保護者会、ノーメディアデーを実施する。警察と連携して非行防止教室や情報モラル講習会を実施する。	○ケータイ、スマホ、ゲーム機等を毎日、午後9時以降学習以外で使っていない生徒が80％以上。	●ケータイ、スマホ、ゲーム機等を毎日、午後9時以降学習以外で使っていない生徒は37％（±0pt） 生徒が使っていないと答えた保護者39％（＋1）	○情報モラル教室等を通じて、指導を推進するとともに、あらゆる媒体を通して、保護者の協力も得ながら、改善を図ります。ご協力よろしくお願いします。
Ⅳ 活動の意欲	○学活や休み時間等を使い、行事に向けての練習を重ね、その中で学級の絆を深めたり、生徒の自主性を尊重し生徒の連帯感の育成を目指した生徒会活動の充実を図ったりする。	○行事(JO,合唱コンクール等)や部活動に積極的かつ向上心をもって参加している生徒が80％以上。	○行事(JO,合唱コンクール等)や部活動に積極的かつ向上心をもって参加している生徒は94％（＋6pt）	○学級対抗玉入れ大会や予餞会など、引き続き生徒が主体となって、積極的に参加できるような活動にできるよう工夫していきます。
	○学活・道徳・総合の時間を使って、清掃やボランティア活動の意義について考える機会を設ける。生徒会主催によるボランティア活動を実施し、参加を呼びかける。	○清掃やボランティア活動に友達と協力して進んで取り組んでいる生徒が80％以上。	○清掃やボランティア活動に友達と協力して進んで取り組んでいる生徒はボランティア67％（±0pt）、清掃91％（±0pt）	○友達と協力して清掃に取り組む生徒の姿が多く見られました。一方で、コロナ禍の影響もあり、多くのボランティア活動が中止となってしまいました。今後は情勢を見ながら、ボランティア活動を実施していきたいと思います。
Ⅴ 健康・体力	○日常の生活指導や掲示物を通して、朝食を摂ることの大切さを生徒に伝えていくとともに、保健だよりや学校保健委員会を活用して、保護者からも協力が得られるよう働きかける。	○毎日必ず朝食をとっている生徒が80％以上。	○毎日必ず朝食をとっている生徒は89％（＋1pt）	○日常の指導や保健だよりや掲示物等の活用を通し、朝食の大切さを引き続き啓発していきます。感染症の予防のためにも規則正しい生活で免疫力を高めることの重要性を理解し、新しい生活様式のもとに実生活で取り組んで行けるよう指導を行っていきます。
	○日常の生活指導や掲示物を通して、成長過程での睡眠時間の確保の大切さを生徒に伝えていくとともに、保健だよりや学校保健委員会を活用して、家庭と協働していく。	○週平均1日6時間以上の睡眠をとっている生徒が80％以上。	●週平均1日6時間以上の睡眠をとっている生徒は71％（－4pt）	○体調不良で来室する生徒の中には、睡眠不足が原因と考えられる者もあり、睡眠の大切さについてその都度個別指導を行っています。質の良い睡眠がとれるよう就寝前のスマートフォンの使用の影響等を保健便りや保健委員会の活動を通して啓発していきます。
Ⅴ 健康・体力	○体力向上プランを周知し、様々な場面(教科体育・部活動・地域の諸行事への参加等)で体力向上を目指す場面を増やす。また、自己の体力を確認し、その伸長や改善を目指す意識の向上を図る。	○日常的に進んで自分の体力を向上させようとしている生徒が80％以上。	○日常的に進んで自分の体力を向上させようとしている生徒は89％（＋5pt）	○体力向上に取り組んでいる意識はもっていますが、「おおいにできた。」とは言えないのが現状です。「自信をもって取り組んだ。」と答えられるように、自信をもたせていきます。自己有用感の味える体力づくりへの取り組みにしていきます。

評価対象	今年度の方策	今年度の具体的数値目標	成果と課題（昨年比）	2学期の主な改善策
VI 安全確保・ 施設設備	○登下校や学活、交通指導の中で、交通安全への意識を高め、ヘルメットをかぶるように働きかける。また、危険箇所での一時停止を呼びかける。	○交通ルールを守り、ヘルメットをかぶって登下校している生徒が100％。	○交通ルールを守り、ヘルメットをかぶって登下校している生徒は100％（＋1pt）	○条例も改定されてヘルメットについては、教師が校外パトロールをしている際にも全生徒が着用している姿が見取れています。課題である一時停止・安全確認、飛び出し防止を徹底させるために、引き続き繰り返し指導を行っていきます。
	○避難訓練を通して、避難における注意事項、避難経路等を確認する。	○災害や、火災発生時の避難の仕方に関する態度を身に付けている生徒が80％以上。	○火災等の事故発生時の避難の仕方に関する知識を身に付けている生徒は89％（＋9pt）	○避難に関する生徒の意識が高くもたれているため、今後も計画的な指導を行っていきます。
	○校外委員会のなかで、生徒同士で危険箇所の確認・周知をできるようにする。また、安全マップを各フロアに掲示し、危険箇所を常に把握できるようにする。	○自分の通学路の事故等が起こりそうな危険対応できる生徒が80％以上。	●自分の通学路の事故等が起こりそうな危険な箇所を知っている生徒は79％（＋7pt）	○安心安全マップを各学年フロアに掲示し、危険箇所の確認と周知を行っています。また、その対処法や多様な危機管理についての指導を日常的に行っていきます。
	○日々の校門付近や、定期テスト期間の主要な交差点等での登下校の指導を行い、交通マナーの向上を呼びかける。	○学校の登下校の安全指導が適切であると感じている保護者が80％以上。	○学校の登下校の安全指導が適切であると感じている保護者は86％（－1pt）	○事故件数の減少、年間4回のPTAでの交通指導、学校からの便り等により保護者の評価がAとなっている考えられます。安全指導は、教師と保護者の連携が大切であり、今後も安全指導を行うとともに、保護者の理解と協力を得られるようにしていきます。
VII 進路・ 生き方	○職業調べ、職場体験学習等の啓発的体験や生き方教育講演会、立志式などの学校行事で、ワークシートを将来の夢や希望を意識できるように工夫する。	○自分の将来への夢や希望をもっている生徒が80％以上。	●自分の将来への夢や希望をもっている生徒は74％（＋1pt）	○コロナ禍で自分の将来について考えるための各行事が中止になってしまったため、道徳を始めとした各教科等を通して、将来への夢や希望を育めるようにしていきます。
	○進路希望調査や教育相談シートを活用し、家庭での進路にかかわる話合いの場面を意図的に行い、学年通信や進路便り、キャリア教育通信により啓発する。	○親子で進路について話し合う機会を定期的に設けている家庭が80％以上。	●親子で進路について話し合う機会を定期的に設けている家庭は85％（＋6pt）	○今後も進路便り等を通して、親子で進路について話し合うきっかけをの場を設けていきます。また、家庭で話し合った内容を学級や学年で共有することによって、生徒がさまざまな考えに触れることができるようにしていきます。